

編集後記

県共済会設立 50 周年という節目の年にあたり、平成 29 年の理事会・評議員会にて、記念誌を作成することが決まりました。

制作にあたり、平成 14 年に 35 周年記念誌を作成していることから、その後の 15 年をまとめた記念誌にしようという案もありましたが、やはり節目の 50 年の歴史を一つにまとめようということで、この冊子の作成となりました。35 年誌を読み返しながら記事をまとめなおしてみると、なぜ・どうしてと次々疑問がわき、35 周年記念誌の編集を務めた萩原晃さんが集めた資料を確認したり、昔の議事録、事業報告、決算書を確認したりしているうちに思いのほか時間がかかり、12 月には発行できるかと予定していましたが、結局 30 年度末になってしまいました。

本会の歴史を繙き、あらためて本県の福祉事業を担ってこられた先人たちが、日々福祉に取り組んでくれる職員の確保及び人材の育成に心を馳せ、優れた人材を得るには、少しでも良い待遇を実現し、せめて公務員並みの待遇を用意したいという切実な願いで本会を誕生させたことを感じました。

また、袴田元会長は会長就任の年に静岡県が当番県であった関ブロ連絡協議会に参加して、本県の社会福祉施設の退職金制度が他県に比べて、会員の負担金が全国的に見ても最も低いランクにあり、したがって職員の退職手当金も他県に比べて著しく劣っていることを知り、早速検討委員会を設置し、会員負担金や、退職給付金の在り方等長期的な視点に立って見直しを行いました。そうして制度改革を行い、現制度で再出発をして 15 年余りが過ぎています。その間に退職共済法の大きな見直しや、公益法人制度の改革、低金利の時代等大きな変革を迎えつつ、共済制度の運営を続けています。

今も昔も、より良い人材確保の確保には、安心して働く労働条件をととのえることが必要です。

社会情勢も働き方も変遷していきませんが、今後、ますます職員の処遇向上が重要になってくると考えたとき、先人たちが育てた退職共済制度を次の世代にどのようにつないでいくか、大きな課題になります。歴史を知ることがその一助となることよう願います。

終わりに、事務局による編集作業に外部の視線で構成にご尽力いただきました元静岡県社会福祉協議会の風間康様、また、校正にご協力いただきました同 北川利男様に厚く感謝申し上げます。

県共済会事務局

佐々木希世子

古木 秀子

望月 真紀子